

うらおそい歴史新聞



第12号
平成26年
7月

中国泉州市の子供達が浦添の歴史を学ぶ

浦添グスク・ようどれ館に17日、浦添市の友好都市である中国・泉州市の小中学生など27名が交流事業の一環として来訪し、NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会などの案内で施設見学を行いました。

この交流事業は、浦添市と中国福建省泉州市、両市の小中学生の訪問と交流によって、相互の文化に対する理解を深めるためなどの目的から毎年実施されているもので、今年度は浦添市に「平成26年度泉州市小中学生交流団」が訪れました。

案内は中国語で行われ、浦添グスクから出土した中国産陶磁器などの遺物の見学や映像プログラムを交えながら、琉球の中山王・察度の時代に中国に入貢したことや、当時の受け入れ港が中国の泉州であったことから、浦添

と泉州の交流が約650年前から行われていたことが紹介されました。みなさんもぜひ浦添と中国の歴史のつながりを学びに浦添・グスクようどれ館に足を運んでください。



浦添グスク・ようどれ館に設置された映像プログラムに見入る泉州市小中学生交流団のみなさん。



浦添グスクからは、察度王の時代などに中国との交流でもたらされた青磁や白磁等の中国産陶磁器が多く出土している。浦添グスク・ようどれ館で展示しています。

地元・浦添でまち歩き

浦添小学校で14日、浦添城が歌詞に入った校歌をヒントに地元の文化を学ぶ「風景学習」が実施され、4年生110人がNPO法人うらおそい歴史ガイド友の会の案内で学校周辺の文化財をまわりました。

浦添ようどれを見学した班は英祖王の時代に、この近くに沖繩で初めて建てられたお寺といわれる極楽寺があったことや、墓室に安置された石厨子の模様は仏教とイスラム教の影響を受けていることなどを学びました。

浦添グスク・ようどれ館では、墓室を再現した展示があり、石厨子のレプリカを見学することができます。



浦添ようどれ石厨子
石厨子の素材の青石（輝綠岩）は中国福建省周辺が産地であるといわれている。彫刻には仏教的なモチーフが彫られている。

浦添グスク・ようどれ館

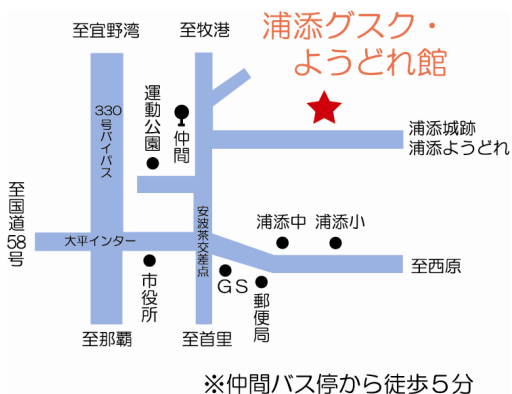
【開館時間】
午前9時～午後5時

【入館料】
大人（高校生以上） 100円
小人（小中学生） 50円
※市内小・中学生は無料

【休館日】
月曜日・12月28日～1月3日
【住所】〒901-2103
沖縄県浦添市仲間2-53-1

【電話】
098-874-9345
【アクセス】
琉球バス交通 牧港線（55番）
仲間バス停から徒歩5分

※浦添グスク・ようどれを中心に浦添の史跡・文化財の案内を致します（有料）。時間・コースも相談できます。お気軽にお問い合わせください。



※仲間バス停から徒歩5分